

# 森林研修所ニュース

平成30年4月  
No.84

## 平成30年度 研修実施計画 の概要紹介

カラスノエンドウ(研修所敷地にて撮影)

森林技術総合研修所では、林業の成長産業化を実現するため、国産材の安定供給体制の構築、森林資源の再造成の確保及び森林の公益的機能の維持増進を一体的に図る必要があることから、これらの施策の推進に必要な知識・技術を備えた技術者を育成する研修を実施しています。平成30年度に行う78コースの概要を、本ニュースの1～4ページでご紹介します。

78コースの内訳は、集合研修76コース(東京都八王子市にある本所で59コース、群馬県沼田市にある林業機械化センターで17コース)と、通信研修2コース(森林活用、治山・林道)です。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

なお、各都道府県における林業大学校や森林・林業関係の高等学校の教育・実習内容を充実するため、各研修コースへの教職員の方の受講についても対応しますので、ご相談下さい。

平成29年度に行った研修からの主な変更点は、以下のとおりです。



### 1. 研修の新設

新たな行政ニーズ等に応じ、以下の研修を新設。

- ・森林組合指導の実務を的確に遂行できる者の育成に向けた、「森林組合指導担当基礎研修」
- ・林業金融・税制の業務全般を適切に行える者の育成に向けた、「林業金融実務・税制研修」
- ・林業技術の開発及び普及を研究機関や民有林と連携して推進するため、国有林野職員を対象とした、「技術開発・普及支援研修」

### 2. 研修の統合・再編

- ・講義内容の重複を解消するとともに、より効果的な研修の実施に向け、「森林調査」、「森林施業技術」、「森林立地」及び「森林計画(中級)」等、8組の研修を統合・再編。
- ・機械化センターにおいて、「高性能林業機械作業システム(実践)研修」と「森林作業道(改修技術)研修」を統合。

### 3. 研修の拡充

- ・エネルギー利用に限らず、木質バイオマスの多様な利用及び地域循環利用の取組事例を扱う「木質バイオマス利用研修」を実施。
- ・「無人航空機活用技術研修」、「チェーンソー・刈払機研修」をそれぞれ2回実施。
- ・「生物多様性保全研修」の対象者に森林官、「高性能林業機械(安全指導)研修」及び「集材架線研修」の対象者に林業大学校指導者を追加。
- ・研修の充実を図るため、「林道技術者育成研修」、「チェーンソー伐木造材技術(上級)研修」等、7研修の日数を追加。



# 平成30年度 研修実施計画



## 1. 国産材の安定供給体制の構築の推進に必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
1	木材産業・木材利用(基礎知識)	○木材産業・木材利用の現状と課題 ○木材の流通・加工の基礎知識○木造建築・住宅資材の基礎知識	地方公共団体職員、森林管理局職員等(初任者レベルの者)	35	1/21~1/25	山梨県※1
2	木材産業・木材利用(実践)	○木材産業・木材利用の現状と課題○木材の流通・加工 ○住宅資材、技術開発○大規模木造建築、木材利用推進	地方公共団体職員、森林管理局職員(初任者レベルの者を除く。)、森林総合監理士等	35	12/10~12/14	
3	木材産業・木材利用(先進事例学習)	○木材の流通・加工に関する動向○木材のカスケード利用 ○木材市場、CLT工場○バイオマス発電施設	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	28	11/5~11/9	岡山県※1 (卒業プラン)
4	木質バイオマス利用	○最新の木質バイオマスの多様な利用の現状と課題 ○海外で普及定着している木質バイオマスの多様な利用 ○国内での先進的な取組事例(供給体制を含む。) ○木質バイオマス用木材の地産地消に向けた取組	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	30	12/4~12/7	
5	公共建築物等木材利用促進	○建築基準法の解説・木造技術の最近の動き ○中大規模木造のための木質系材料の知識 ○木造建築物の構造設計の基礎	地方公共団体職員等公共建築物等の構造設計及び発注等に係わる者	40	8/6~8/10	
6	木材輸出戦略	○木材輸出を巡る最近の情勢 ○輸出先国の規格・規制、商慣行○木材輸出事例の分析 ○製品等の付加価値を高めた輸出促進の戦略	地方公共団体職員、森林管理局職員等	30	1/30~2/1	
7	チェーンソー伐木造材技術(初級)	○伐木等の業務(労働安全衛生規則第36条第8号)に係る安全衛生特別教育○防護用品の必要性○ISO規格による振動管理	地方公共団体職員	15	6/25~6/29	機械化C※3
8	チェーンソー伐木造材技術(上級)	○チェーンソーを用いて行う伐木等の業務(労働安全衛生規則第36条第8号の業務のうちチェーンソーを用いて行うもの及び同条第8号の2の業務)従事者安全衛生教育(平成4年4月23日付け基発第260号) ○振動障害の実態と健康管理 ○伐木造材作業における災害の現状と対策	地方公共団体職員(労働安全衛生規則第36条第8号の特別教育修了者)	15	11/26~11/30	機械化C※3
9 10	チェーンソー・刈払機1・2	○伐木等の業務(労働安全衛生規則第36条第8号の2)に係る安全衛生特別教育○刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育○防護用品の必要性	森林管理局職員	14	①6/18~6/22 ②7/2~7/6	機械化C※3
11	高性能林業機械(女性担当者)	○車両系高性能林業機械の特性(デモ)と操作 ○架線系高性能林業機械の特性(デモ)と操作 ○高性能林業機械作業システムの特徴 ○森林整備の現場で活躍する女性たち(事例紹介)	地方公共団体職員(初任担当職員、林道事業担当者及び市町村森林整備計画担当者を含む。)、森林管理局等の女性職員	10	7/30~8/1	機械化C※3
12 13	高性能林業機械(基礎)1・2	○高性能林業機械の特性と操作方法 ○架線系高性能林業機械の安全な作業方法 ○車両系高性能林業機械の安全な作業方法 ○高性能林業機械を使用した安全かつ効率的な作業方法	地方公共団体職員(初任担当職員、林道事業担当者及び市町村森林整備計画担当者を含む。)、森林管理局職員、森林総合監理士等	10	①7/23~7/27 ②10/1~10/5	機械化C※3
14	高性能林業機械(林業大学校指導者)	○高性能林業機械の特性と作業システム ○高性能林業機械の安全な作業方法と作業システム実践 ○安全で効率的な高性能林業機械作業に関する指導のポイント	林業大学校指導者等	10	8/6~8/10	機械化C※3
15 16	高性能林業機械(安全指導・前期)1・2	○車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育(学科・実技)	地方公共団体職員(業務担当経験年数がおおむね3年以上であって、林業大学校指導者及び車両系木材伐出機械等の特別教育の講師等に将来なり得る者)、森林管理局職員(森林官級以上の者)等(「高性能林業機械(安全指導・後期)研修」の受講予定者に限る。)	10	①9/10~9/14 ②10/15~10/19	機械化C※3
17	高性能林業機械(安全指導・後期)	○車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育(学科) ○車両系木材伐出機械等の法整備の背景・経緯 ○車両系木材伐出機械等作業の普及と安全推進について	地方公共団体職員(業務担当経験年数がおおむね3年以上であって、林業大学校指導者及び車両系木材伐出機械等の特別教育の講師等に将来なり得る者)、森林管理局職員(森林官級以上の者)等(「高性能林業機械(安全指導・前期)研修」の修了者に限る。)	20	1/21~1/22	機械化C※3
18	高性能林業機械作業システム(生産性)	○生産性把握に必要な基礎知識○生産性の把握と算出 ○算出したデータの検討・検証○生産性把握法と作業の評価	地方公共団体職員、森林管理局職員(資源活用担当者)	10	10/22~10/26	機械化C※3
19	高性能林業機械作業システム(森林作業道改修実践)	○森林作業道改修に必要なポイント ○森林作業道の改修実践及び高性能林業機械作業システム構築と実践 ○改修箇所と作業システムの評価	地方公共団体職員(「伐木等の業務に係る特別教育」及び「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)技能講習」修了者で、初任者レベルの者を除く。)、森林管理局職員(首席森林官級以上の者)並びに民間事業体職員	10	11/5~11/14	機械化C※3
20	林業機械体験	○チェーンソーの体験学習○高性能林業機械の体験学習 ○林野庁行政の役割と林業技術者への期待	大学生(林業関係学会会員)等	20	9/25~9/28	機械化C※3
21	集材架線	○機械集材装置の運転の業務に係る安全衛生特別教育 ○エンドレスタイヤ式の架設・撤去作業の実践 ○ワイヤロープの取扱い ○集材架線の設計	地方公共団体職員(林業大学校指導者及び機械集材装置運転業務の特別教育の講師等に将来なり得る者)、森林管理局職員(初任者レベルの者を除く。)、森林総合監理士(「林業架線作業主任者免許」取得者及び「機械集材装置運転業務の特別教育」修了者を除く。)	15	5/29~6/8	機械化C※3
22 23 24	林道技術者育成1・2・3	○林道の設計に関する知識・技術の概要 ○林道を設計するための基本的な現場実務 ○林道工事の監督業務や林道の維持管理に関する知識 ○施設災害復旧に関する知識・技術の概要 ○林道施設の点検・診断手法の概要○事業評価制度の概要	地方公共団体職員(業務担当経験年数がおおむね3年以下の者)、森林管理局職員等(通信研修(治山・林道)を修了した者等及び初任の森林管理署治山・土木担当者等)	20	①6/4~6/15 ②7/23~8/3 ③8/27~9/7	山梨県※1
25 26	林業専用道技術者1・2	○林業専用道の路網計画、作設事例 ○林業専用道作設後の技術的課題○路網計画に関する現地検討	地方公共団体職員、森林管理局職員等(初任者レベルの者を除く。)、森林総合監理士等	25	①5/14~5/18 ②7/2~7/6	山梨県※1

### 1. 国産材の安定供給体制の構築の推進に必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
27	森林作業道(基礎技術)	○車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)技能講習(学科・実技修了試験含む) ○森林作業道の作設に必要な基礎知識及び技術 ○森林作業道に関する試験研究成果	地方公共団体職員(初任者レベルの者)	10	8/27~9/7	機械化C※3
28	森林作業道(作設指導)	○森林作業道作設に必要な知識 ○森林作業道作設指導に必要なポイント ○作設箇所の検討・検証	地方公共団体職員(「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)技能講習」修了者相当レベル)、森林管理局職員(森林官級以上の者)等	15	7/9~7/13	機械化C※3
29	森林作業道作設指導者・監督者	○森林作業道の作設方法及び施工管理 ○路体構造調査○作設路線の評価	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	30	7/30~8/3	山梨県※1

### 2. 森林資源の再造成の確保の推進に必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
30	森林計画(森林調査・計画策定)	○最新の森林調査の技術 ○森林調査の手法 ○森林計画の推進○森林計画面算定等の実務	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務担当経験年数がおおむね2年以上の者、森林計画(基礎)研修修了者あるいは同研修修了者と同等の知識を有する者)	25	11/12~11/16	山梨県※1(年次プラン)
31	森林計画(森林立地・施業技術)	○土壌の調査手法 ○立地環境と造林、森林管理の関係 ○森林の多面的機能発揮のための森林施業	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務担当経験年数がおおむね2年以上の者、森林計画(基礎)研修修了者あるいは同研修修了者と同等の知識を有する者)、森林総合監理士等	25	10/15~10/19	山梨県※1(年次プラン)
32	森林保護管理(病虫害)	○森林保護行政の現状と課題 ○森林病虫害の現状と防除対策	地方公共団体職員、森林管理局職員等	32	7/17~7/20	
33	森林保護管理(獣害)	○森林保護行政の現状と課題○野生鳥獣管理を巡る情勢 ○野生鳥獣の保護管理と森林施業○鹿の痕跡と被害 ○くくりわな製作とわな設置・捕獲実習等 ○シカ肉等の有効活用事例	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	30	11/5~11/9	
34	森林整備事業	○森林整備事業の概要○森林整備の新たな取組 ○施業集約化の取組○効率的な作業システムの構築 ○継続的に利用できる路網整備	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	35	5/28~6/1	

### 3. 森林の公益的機能の維持増進及び山村の活性化の推進に必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
35 36	治山(基礎)1・2	○治山事業の概要○事業評価制度(費用対効果分析)の概要 ○治山事業の実務○調査・計画・設計、溪流測量、工法、点検、診断等(総合演習)	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務担当経験年数がおおむね3年以下の者、又は通信研修(治山・林道)を修了した森林官等及び初任の森林管理署等治山・林道担当者)	30	①6/12~6/22 ②9/25~10/5	山梨県※1
37 38	治山(設計)1・2	○治山事業の概要 ○治山調査・測量・設計の実践 ○災害復旧	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務担当経験年数がおおむね2年以上5年以下の者で、治山(基礎知識・施設計画)研修を修了した者、あるいは治山(基礎知識・施設計画)研修修了者と同等の知識を有する者)	27	①7/2~7/13 ②9/3~9/14	
39	治山(地すべり)	○地すべり防止事業を取り巻く新たな動き ○治山(地すべり関連)の先進的知識・技術 ○地すべり防止技術向上のための専門的技術 ○調査、計画、設計等の実務	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務担当経験年数がおおむね3年以上の者)	30	10/29~11/2	
40 41 42	保安林及び林地開発許可1・2・3	○保安林制度について ○保安林指定・解除及び指定施業要件変更の実務○林地開発許可制度について ○保安林解除及び林地開発許可等についての課題研究演習	地方公共団体(都道府県。条例に基づく権限移譲を受けた市町村を含む。)職員、森林管理局職員等(初任者レベルの者)	40	①6/25~6/29 ②8/20~8/24 ③11/26~11/30	
43	生物多様性保全	○生物多様性をめぐる動き○森林生態系と生物多様性 ○生物の多様性を豊かにする森林管理	地方公共団体職員、森林管理局職員(生態系管理指導官、森林施業調整官、森林官等)、森林総合監理士等	21	11/12~11/16	山梨県※1
44	森林環境教育	○森林環境教育の現状○森林環境教育等の課題と推進方策 ○森林環境教育等の企画と実践	地方公共団体職員、森林管理局職員等(実際に森林環境教育等の業務に携わっている者)	25	9/25~9/28	
45	特用林産	○特用林産物に関する知識、生産技術 ○安全な特用林産物の供給 ○特用林産物を活用した地域振興の取組	地方公共団体職員等	20	6/18~6/22	山梨県※1
46	山村活性化	○山村と都市や企業等の連携○地域資源を活用した地域づくり ○企画立案実習	地方公共団体職員、森林管理局職員等	20	2/13~2/15	

### 4. 森林・林業行政に携わる者等として必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
47	森林計画(基礎)	○森林計画制度の体系 ○各種森林計画の概要と意義及びその運用 ○森林計画作成(ゾーニング)演習	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務担当経験年数がおおむね3年以下の者)	35	8/6~8/10	
48	市町村林務担当者(基礎)	○市町村担当者に必要な森林・林業の基礎知識 ○国及び都道府県における森林・林業施策の概要 ○森林・林業の構想としての市町村森林整備計画の意義	市町村林務担当職員(初任者レベルの者)	30	12/3~12/7	
49	市町村林務担当者(実務)	○林地台帳制度 ○森林境界明確化 ○施業の集約化 ○森林経営計画の策定	市町村林務担当職員(業務担当経験年数が概ね2年以上の者、市町村林務担当者(基礎)研修修了者あるいは同研修修了者と同等の知識を有する者)及び地域における市町村林務行政のアドバイザーとなり得る者	50	8/27~8/31	
50 51	森林総合監理士育成(前期)1・2	○林業・木材産業の現状○森林施業の方法 ○森林計画制度○路網整備○作業システム ○コミュニケーションとプレゼンテーション演習	地方公共団体職員、森林管理局職員、林業事業体職員等(森林総合監理士育成(後期)を受講予定の者)	30	①6/25~6/29 ②7/9~7/13	

4. 森林・林業行政に携わる者等として必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
52 53 54	森林総合監理士育成(後期)1・2・3	○森林施業の方法 ○森林施業演習 ○路網、伐採計画の作成演習 ○コミュニケーションとプレゼンテーション演習	地方公共団体職員、森林管理局職員、林業事業体職員等(森林総合監理士育成(前期)研修を受講した者)	20	①7/24~7/27 ②8/28~8/31 ③10/2~10/5	①関東局※2 ②北海道局※2 ③九州局※2
55	持続可能な森林経営のための政策立案能力の強化	○持続可能な森林経営の概論○持続可能な森林経営の基準指標 ○参加型森林経営手法○森林資源モニタリング手法 ○国家森林計画の立案手法 ○行動計画書に基づいた提案書の作成○取りまとめと評価	海外の中央政府及び地方自治体の森林経営・保全担当部局の行政官	12	8/22~9/19	
56	総合職新採用	○林野庁職員としての心構え○森林・林業・木材産業の現状 ○現場実務に必要な技術 ○公務員としての規範	平成30年度国家公務員総合職採用職員	17	4/23~4/27	
57	一般職(大卒程度)新採用	○林野庁職員としての心構え○森林・林業・木材産業の現状 ○現場実務に必要な技術○公務員としての規範	平成30年度国家公務員一般職(大卒程度)採用職員	68	4/9~4/13	
58	一般職(高卒者)新採用	○林野庁職員としての心構え○森林・林業・木材産業の現状 ○現場実務に必要な技術○公務員としての規範	平成30年度国家公務員一般職(高卒者)採用職員	33	4/16~4/20	
59	研修企画運営実務(基礎)	○研修企画に必要なスキル ○研修の運営○研修評価・改善の実務	地方公共団体職員、林野庁及び森林管理局の研修実務担当者・人材育成担当者	17	11/19~11/22	
60	研修企画運営実務(先進事例学習)	○林業大学校等の企画運営 ○技術者育成の教育企画運営手法 ○学生募集・就職等学生指導実務	地方公共団体職員、林野庁及び森林管理局の研修実務担当者・人材育成担当者並びに林業大学校及び林業高校の職員等	50	9/10~9/14	岐阜県※1 (年次プラン)
61 62	無人航空機活用技術1・2	○ドローンの関係法令○ドローンの飛行技術 ○ドローンの活用例○画像データ等の処理	地方公共団体職員、森林管理局職員等	18	①10/9~10/12 ②10/23~10/26	
63	林業金融実務・税制	○林業金融制度の意義と実際○林業税制の意義と実際 ○林業経営の現状と課題	地方公共団体職員等	47	9/19~9/21	
64	森林組合指導担当基礎	○森林組合の現状と課題、森林組合法の解説 ○コンプライアンスの確立○常例検査、系統監査について ○森林組合法計制度○森林整備事業等補助事業の概要と手続き	都道府県森林組合指導担当者	30	7/18~7/20	

5. 国有林野事業職員の能力向上に資する知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
65	署長	○国有林野及び地域の森林の管理経営 ○内部組織の管理能力の向上○外部対応能力の向上	森林管理署長の職(これと同等と認められる職を含む。)に初めて任用された職員	20	5/22~5/25	
66	総括官等技術	○公務員倫理と人材育成○これからの森林施業技術等 ○業務の適切かつ円滑な実施	総括森林整備官・地域統括森林官を中心に、森林管理署等において技術指導を行う者	25	6/4~6/8	
67	発注者綱紀保持	○入札制度、談合、経済法等○リスク管理とコンプライアンス ○他省庁や地方公共団体における先進的取組事例研究	森林管理局署契約発注担当職員等(業務担当経験年数がおおむね2年以下の者)	28	10/17~10/19	
68	健康安全管理	○健康安全管理体制の強化 ○健康管理指導能力の向上 ○安全管理指導能力の向上	森林管理局の安全衛生係長、局・署等の健康・安全衛生管理担当者、健康及び安全管理に関する実務的指導の担当職員(業務担当経験年数がおおむね2年以下の者)	21	5/14~5/17	
69	木材安定供給(生産・販売)	○政策としての生産・販売事業○木材の流通・加工と販売 ○国有林材における安定供給等の取組	森林管理署等の収穫・生産・販売担当職員(業務担当経験年数がおおむね2年以下の者)	20	10/22~10/26	
70	情報処理(刷新システム等技術者養成)	○国有林野情報管理システムの運用管理 ○国有林野情報管理システムの操作○情報セキュリティ	森林管理局の情報処理担当職員等	14	12/18~12/20	
71	情報処理(森林GIS技術者養成)	○国有林GISの概要と基本操作 ○国有林GISの新機能と業務への活用	森林管理局のGIS担当職員等(業務担当経験年数がおおむね2年以下の者)	14	2/6~2/8	
72	民国連携推進	○民有林施業の概要○国有林における民国連携の取組 ○生物多様性保全に配慮した管理経営及び森林被害対策 ○木材産業施策の課題と今後の展開方向	森林管理署職員(地域林政調整官、森林技術指導官等)	14	1/21~1/25	
73	地域対応力向上	○効果的な情報の発信○地域の声の引き出し、把握 ○地方行政の現状と課題○合意形成の技術 ○具体的な業務を想定した演習○コミュニケーション能力の向上	森林管理局署職員等で地域関係者との窓口となる者(地域林政調整官、森林技術指導官、地域統括森林官、首席森林官、森林官等)	14	5/29~6/1	
74	行政能力向上(前期)	○森林・林業施策の動向 ○森林・林業行政における国有林の役割 ○コミュニケーション、プレゼンテーション演習○企画力演習	林野庁、森林管理局署職員等(森林官等の役付となるまでの期間において、林野庁本庁や現配置局と異なる局等での勤務を経験しよう計画的に人事配置された者)	14	4/23~4/27	
75	国有林野管理等の実務	○国有林野管理処分業務の概要及び実務 ○国有林野の鑑定業務の実務等 ○国有林野の利活用業務の実務	森林管理局署職員(鑑定官及び、財産管理、計画処分、貸付担当職員等)	25	12/10~12/14	
76	技術開発・普及支援	○技術開発の現状と課題 ○研究機関等との連携による取組事例 ○技術開発の効果的な普及	森林管理局職員(森林技術・支援センターの所長、森林技術普及専門官、技術開発担当企画官、技術開発主任官等)	20	1/30~2/1	
77	通信研修(森林活用)	○国有財産制度、国有林野管理に関する基礎知識 ○分収林制度に関する基礎知識 ○国有林野等貸付・使用等に関する基礎知識 ○森林空間総合利用に関する基礎知識 ○林野・土地の利活用に関する基礎知識	森林管理署職員等	40	6/1~2/28	
78	通信研修(治山・林道)	○治山に関する基礎知識○林道に関する基礎知識 ○土質に関する基礎知識○測量に関する基礎知識 ○水理に関する基礎知識	森林管理署職員等	50	6/1~2/28	

※1 備考欄が空欄の研修は森林技術総合研修所で実施する研修。

※2 備考欄に県名を記載した研修は、政府関係機関移転基本方針(平成28年3月22日まち・ひと・しごと創生本部決定)を踏まえ、山梨、岐阜、岡山の各県内で現地実習等を実施する研修(山梨県については、従前からの継続分等も含む)。

※3 「機械化」と記載した研修は、群馬県沼田市にある林業機械化センターで実施する研修。

※4 対象者欄に紫色の網掛けをした研修は、林野庁職員のみを対象とした研修。

※5 「北海道局」、「関東局」、「九州局」と記載した研修は、それぞれ、北海道森林管理局、関東森林管理局、九州森林管理局の管内で実施する研修。

■ 研修の詳細を記載した研修実施計画は、森林技術総合研修所のHPに掲載しています。 <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyu.html>

## 研修紹介

# 1

## 木材産業・木材利用（実践）研修

期 間:1月15日～1月19日(5日間)  
受講者数:21名(国有林野事業職員4名)



柱材製造ラインで説明を受ける研修生  
(ポラテック株式会社坂東工場)

### 教務指導官 松下 英之

本研修は、木材産業の振興と木材利用の需要拡大を図るため、木材の流通・加工、木造建築物等に関する最新の動向・技術等についての知見を広め、地域の木材産業等の課題の解決に資することを目的として実施しました。

研修初日は、林野庁木材利用課の佐藤補佐より木材利用の拡大と木材利用の意義についての講義と中熊教務指導官より木材JAS法についての講義が行われました。

2日目は、つくば市の建築研究所でCLT実験棟、6階建て2×4建築物、実大構造物実験棟、火災実験棟などを見学させて頂きました。

3日目は、同じくつくば市の森林総合研究所で、木材の化学的利用技術として、セルロースナノファイバーの製造、抽出成分の利用、

柱材の強度試験の実演などを見学させて頂き、その後、中国木材鹿島工場において、製材、集成材、バイオマス発電及び乾燥施設を見学させて頂きました。丁寧な説明及び質疑応答を頂き予定を1時間もオーバーしてしまいました。4日目は、坂東市のポラテック板東工場のプレカット施設を見学させて頂きました。早朝から夕方近くまで、柱材から横架材、羽柄、2×4部材のプレカット材の製造工程をじっくりと時間を掛けて見学させて頂くとともに、質問の時間も設けて頂き、充実した見学となりました。

最終日は、沖倉製材所の沖倉社長に東京で地域材を活かす取組について熱く語って頂きました。

今回の研修を通じて、国産材率が約三割である我が国の木材産業等の現実・実態を目の当たりにして頂き、受講生各々が各地域における木材産業等の振興について検討する際に、今回学んだことが活かされることを期待しております。

### 研修生より

### 山梨県峡南林務環境事務所 依田 勇二

私が本研修を受講した動機は、「大手の木材産業事業者の実際を知ることで、本県の木材産業との違いを知り、今後の普及指導の糧にしたい」という思いでした。私からは、木材産業事業者と研究機関から学んだ内容を紹介します。

中国木材鹿島工場とポラテック板東工場では、大規模かつ効率的な加工施設に圧倒され、「大ロットで製品を安定供給する為には、素材を安定的に入荷し、加工～製品の仕分け～物流までのシステムを構築する必要がある」ことを学ぶことが出来ました。

つくば市の建築研究所では、CLT実験棟と2×4建築実験棟など、新たな工法で木材を活用する取組を、森林総合研究所では、トドマツの葉から抽出した精油やセルロースナノファイバーなど、実用可能な木材の科学的利用技術を知ることが出来て、木材の可能性を学ぶことが出来ました。

沖倉製材所の沖倉社長からは、地域材を使うためには、地域交流や情報発信を積極的に行い、オリジナル商品の製作・提案や、乾燥とグレーディングで高品質な材を生産することの重要性を学ぶことが出来ました。

山梨県の加工流通業者は小規模であり、川上から生産された素材の多くが他県へ流通してしまうのが現状です。今後は、本研修で得た知識を活かして山梨県の強みを活かした木材産業の経営支援に取り組んでいきたいと思っております。



200基以上が並ぶ木材乾燥施設を見学  
(中国木材株式会社鹿島工場)

## 研修紹介

# 2

# 木質バイオマスのエネルギー利用研修

期 間:2月21日～2月23日(3日間)  
受講者数:18名(国有林野事業職員4名)

● ● ● ● ● 教務指導官 立岩 久松

木質バイオマスは持続可能な資源であり、エネルギーや製品として活用していくことで、農山漁村の活性化や地球温暖化の防止、循環型社会の形成といった課題の解決に寄与するとされているところです。

本研修は、行政及び研究サイドからの木質バイオマスのエネルギー利用の状況や取組などの情報提供、民間研究機関からのコスト面も含めたエネルギー利用の事例紹介、そして地域単位で取り組んでいるエネルギー利用施設の見学など木質バイオマスのエネルギー利用に関する知識の習得に重点を置いて実施しました。

特に現地見学では、①静岡県小山町が「小山町バイオマス活用推進計画」を策定し、行政主導による集約的な利用施設の建造に取り組ん

でいたこと、②小山町周辺の市町村では、製紙業が盛んなことに加え、民間企業の研究・開発部門が多く誘致されており、企業の環境貢献によるバイオマスエネルギー利用の実態があることから、昨年度の現地見学箇所を一新し、静岡県 小山町、(株)リコー、大興製紙(株)の木質バイオマス利用施設等の見学を取り入れたところです。具体的には、①静岡県小山町の集約的な取組として「燃料ペレットの作成工程」→「自動選別機による原木の仕分け」→「トマト栽培における次世代施設園芸ペレットボイラー(重油混焼)」→②(株)リコー(御殿場市)の社屋空調におけるエネルギー利用として「木質バイオマスプラント(ボイラー・冷温共用)」→③大興製紙(株)(富士市)の製紙乾燥工程における熱利用として「パルプ廃液回収ボイラー」の行程で施設見学を実施しました。

見学の行程がタイトだったため「もう少し時間をかけて見学したかった。」とのコメントもありましたが、行政主導の具体的な取組やあまり目にする機会のない製紙工場等民間企業での取組であったこともあり、「町を挙げての地域循環型エネルギー推進に向けた集約的な施設整備、面的な熱供給など大変参考になった。」、「企業活動を地域・大学をまきこみ地域振興につなげていることに林業の新しいモデルを感じた。」、「黒液の説明など参考となった。回収ボイラーは初めて聞く事例であり感心した。」等のコメントをいただいています。

ただ、大興製紙(株)の見学では、「製造工程とバイオマス利用との関係性が良く分からない。」とのコメントもいただきました。本来は製紙の乾燥工程で稼働している建築廃材を中心としたチップと重油の混焼ボイラーを見学し、建築廃材を未利用材等森林由来のチップに置き換えてもらうには、どのような課題があるのか等について研修生と企業の担当者の方とのキャッチボールを期待していたのですが、思い描いていたようにはなりませんでした。

次年度に向けては今回の研修成果を踏まえ、反省すべき点は反省しより充実した研修となるよう努力したいと思いますので、研修生の皆さんにおかれましては、不十分な点もあったかと思いますが、本研修で得た知識や技術を職場に持ち帰り業務に活かしていただくことを期待しています。



次世代施設園芸ペレットボイラー(重油混焼)  
トマト苗木育苗庫



ペレット工場を視察



ハウス内を視察

## 研修紹介

# 3

- ・ 2017森林・林業・環境機械展示実演会を視察
- ・ 近畿中国森林管理局へ講師派遣

2017森林・林業・環境機械展示実演会  
期 間:2017年11月19日～11月20日



ハーベスタヘッド

### 林業機械化センター所長 片山 宏文

第41回全国育樹祭記念行事として、平成29年11月19日、20日の2日間、香川県坂出市において「2017森林・林業・環境機械展示実演会」が開催され、当センターからも2名視察しました。

フォワーダ、タワーヤーダ、ハーベスタ、プロセッサなど最新の林業機械が展示されていました。また、労働災害防止に活用できる高性能林業機械のオペレーターを育成するためのシミュレータや山に行かなくても傾斜地での伐倒を体験できる練習機など、目を見張る機械が多数出展されていました。

### 近畿中国森林管理局へ講師派遣 (業務研修(専門業務研修)チェーンソー研修)

期 間:2018年2月20日～2月22日

研修講師:機械化指導官 富元 雅史

機械化指導官 野田 晋一

機械化研修係 山下 茂樹

近畿中国森林管理局が実施する「チェーンソー研修」の講師依頼があり、2月20日から22日にかけての3日間、当センターから3名の職員が、岡山県新見市の森林技術・支援センター及び岡山森林管理署管内の国有林において、伐木造材作業に関する基礎的な知識と技術、健康障害を防止するために正しい目立てを行うことの重要性について、講義と実習を行いました。本研修ではチェーンソーに初めて触れる研修生も多く、また、請負事業等において安全指導・監督業務を行う立場の職員も参加していたことから、皆さん、意欲的に座学、実習に取り組んでいる様子が見え、かえりました。

研修後には、「倒木等の処理に早急に対応できると思う」、「請負事業体への指導等に取り入れたい」、「監督業務でこの経験を伝えることができる」等のコメントが寄せられ、本研修を通じて、伐木造材作業による災害や健康障害がなくなる現状を認識し、安全な伐木造材作業について指導するために必要な基礎的知識、技術を付与することができたと感じています。

林業機械化センターでは、国有林野職員の技術指導能力の向上に寄与するため、講師の要請に今後も対応していきたいと考えています。



チェーンソーの操作(鋸断)



チェーンソーの構造とメンテナンスの実習



## インド環境森林気候変動省視察団を受け入れました

JICAでは円借款により「森林管理能力強化・人材育成事業」を実施しており、平成30年1月18日、本研修所でも同プロジェクトディレクター及び州政府森林研修所所長等で構成される視察団4名を受け入れました。

当日は、赤堀所長から本研修所の研修について講義し、インドのバクシ博士からもインドの森林行政機構の仕組みや研修の説明を受け、人材育成に係る情報交換・意見交換を行いました。

### ■ 転入(平成30年2月1日付け)

林業機械センター所長 片山 宏文 (近畿中国森林管理局奈良森林管理事務所長)

### ■ 内部異動(平成30年2月1日付け)

林業機械化センター付 青山 一郎 (林業機械化センター所長)

### ■ 退職(定年退職)(平成30年3月31日付け)

小倉 和幸 (総務課長)

石垣 泰夫 (教務指導官)

玉木 泰政 (経営研修課調整係長)

### ■ 退職(森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター九州育種場へ) (平成30年3月31日付け)

藤崎 恵莉佳 (総務課会計係)

### ■ 期間更新(平成30年3月31日付け)

総務課行政専門員(再任用) 菊池 睦子 (平成31年3月31日まで)

### ■ 転出(平成30年4月1日付け)

林野庁森林整備部付(派遣:国際熱帯木材機関事務局次長(森林経営担当))

赤堀 聡之 (森林技術総合研修所長)

環境省自然環境局国立公園課課長補佐 立岩 久松 (教務指導官)

林野庁林政課監査官 荒畑 眞 (経営研修課長)

四国森林管理局愛媛森林管理署小田第二森林事務所森林官

山下 茂樹 (林業機械化センター機械化研修係)

林野庁治山課行政専門員(再任用) 石垣 泰夫 (教務指導官)

### ■ 転入(平成30年4月1日付け)

森林技術総合研修所長 上田 浩史 (北海道森林管理局次長)

教務指導官 坂之上 勲太 (林野庁経営課課長補佐(組合事業班担当))

教務指導官 森實 祐子 (森林研究・整備機構森林総合研究所総務部管理課長)

総務課長 林田 栄 (東北森林管理局森林整備部企画官(技術開発・普及担当))

経営研修課長 網倉 和弘 (近畿中国森林管理局計画課長)

経営研修課実施係長 小川 真路 (東北森林管理局宮城北部森林管理署主任森林整備官(経営担当))

総務課会計係 杉谷 静流 (近畿中国森林管理局鳥取森林管理署)

林業機械化センター機械化研修係 土屋 佑平 (関東森林管理局利根沼田森林管理署)

### ■ 内部異動(平成30年4月1日付け)

経営研修課研修企画官 中村 陽子 (技術研修課研修企画官)

技術研修課研修企画官 堂菌 理一郎 (経営研修課研修企画官)

経営研修課調整係長 小野 智子 (経営研修課実施係長)



森林技術総合研修所 [http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuuu\\_zyo.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuuu_zyo.html)

〒193-8570 東京都八王子市廿里町(とどりまち)1833番地94

TEL 総務課: 042-661-7121 / 教務指導官室: 042-661-3560

技術研修課: 042-661-3565 / 経営研修課: 042-661-3567

FAX 042-661-7314

林業機械化センター [http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai\\_ka\\_senta.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai_ka_senta.html)

〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1445 TEL 0278-54-8332 FAX 0278-54-8280